22　次の文章を読んで問いに答えよ。なお、設問の都合上、一部訓点を省いたところがある。　　　　　　　　　　　　　　〈東北大〉二〇二一年度出題

羅　念　庵　先　生　之　先　　㆓ 名　慶　 者㆒、㆓ 善　㆒。   
㆑ ㆑ 　㆑ ㆓ 人　之　㆒、㆓ 親　戚　貧　㆒、⑴以　病　請　薬、　㆓ 善　㆒。 負　券　㆑ 、　　 ⒜不　問。　大　、夜　　㆓ ㆑ 　㆒、 ㆑ 、　境　　儒　　㆑ 　㆑ 　者　也。 、 而　 、「　㆑ 　者　　矣。 皆　㆓ 　　㆒㆑ 子、㆑ ㆓ ㆑ 　者㆒ 也。　　 者　」。 ㆓ 　良　㆒、飲㆓㆐ ㆒。儒　生　㆓ 金　㆒ ㆑ 、㆑ 　、「 母　㆑ 　」。、「　、㆑ 　」。慶　同　、「　母　病 、（ア）聞　市　薬、問　所　質。㆑　㆓ 金　㆒、心　㆓ 　㆒、　㆓ 　㆒ 也。 　」。 ㆓ 良　㆒、　㆑ 　 。⑵歳　且　暮、儒　生　券 ⒝未　酬。　奴　㆑ 　、「　　若　干、奈　」。慶　同　 、「　㆑ ㆑ 　」。㆓ 　㆒、 不㆑ 。明　年　春、㆘ 　㆓ 　㆒ 　者㆖。㆑ 、　負　　儒　　母　子　也。　母　　㆓ 金　㆒、 、「（Ａ）微　翁、不　得　至　今　日。　児㆐ ㆑ 、　㆓ 　㆒。 、（イ） ㆓ 　㆒ ㆑ 、 以　後　期㆔㆐ 翁　世　世　子　孫　綿　綿　　、㆓ 　㆒ 矣」。慶　同　 而　　遺㆓㆐　㆒。　善　行　㆑ 。

（潘士藻『闇然堂類纂』による）

（注）　○羅念庵――明代の儒学者、羅洪先のこと。

○先世――先祖。

○負券――借金の証文。

○儒生――儒学を学ぶ学徒。

○金釧――ここでは女性用のブレスレットのこと。

○病間――病状が快方に向かうこと。

○恚忿――怒ること。

○僮奴――使用人、召使い。

○帷車――ほろ付きの車。

○病起――病気が治ること。

○綿綿纚纚――途絶えることなくつながって美しい様子。

問１　傍線の箇所⑴「以病請薬」、⑵「歳且暮」を、すべて平仮名で書き下せ。現代仮名づかいでよい。

問２　傍線の箇所⒜「不問」、⒝「未酬」の意味を記せ。

問３　傍線の箇所（Ａ）「微翁、不得至今日」を現代語訳せよ。

問４　傍線の箇所（ア）に「聞市薬、問所質」とあるが、どういうことか。本文の内容に即して三十五字以内で説明せよ。

◎問５　傍線の箇所（イ）に「手織此布」とあるが、儒生の母はなぜこのような行為をしたのか。本文の内容に即して六十字以内で説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　⑴＝やまいをもってくすりをこえば（やまひをもつてくすりをこへば）

　　　⑵＝としまさにくれんとするも

「するも」は「すれども」も可。

問２　⒜＝Ａ薬代の支払いを Ｂ求めなかった

Ａ＝５〔｢薬代｣は｢借金｣なども可。「支払い」は「返済」なども可。〕

Ｂ＝５〔「求めない」は「迫らない」なども可。〕

　　　⒝＝Ａ借金を Ｂまだ Ｃ返して Ｄいなかった

Ｂ・Ｄがないものは全体０。

Ａ＝５〔「借金」は「薬代」なども可。〕

Ｃ＝５〔「返して」は「返済して」「支払って」なども可。〕

問３　Ａ善庵先生がいなければ、Ｂ私は Ｃ今日まで生き延びることが Ｄできなかった

Ａ＝４〔「善庵先生」は「先生」「あなた」も可。「～いなければ」の形になっていなければ０。〕

Ｂ＝１

Ｃ＝３〔「生き延びる」などの意味がなければ減点２。〕

Ｄ＝２

問４　Ａ薬を買ったことを聞いたら、Ｂ何を代金として渡したのか Ｃ母親が Ｂ尋ねること。（34字）

Ａ＝３〔同意可。〕

Ｂ＝５〔「何を質草にしたのか」など、同意可。〕

Ｃ＝２

問５　Ａ薬代は払えないが、Ｂ善庵先生の家が途切れることなく栄えることを願って手織りした布を渡して、Ｃ先生の恩に報いたいと思ったから。（60字）

Ａ＝３〔同意可。〕

Ｂ＝４〔どのような布か説明していない場合は０。〕

Ｃ＝３〔同意可。文末が「～から。」となっていないものは減点１。〕

【書き下し文】

のになるり、とす。にをるをてのしみをふをし、とく、問１⑴を以て薬をへば、ずをふ。ひはざれども、ちしてはず。てあり、にをくのをき、かにきてに問へば、ちのののに薬をふ者なり。きてれ、してじてく、「に薬を市ふ者し。ずのととににして、だ母の為にする者有らざるなり。其れなる者か」と。りて其のをひ、之にせしむ。儒生をして薬にとするに、之に問ひて曰く、「の母之をじたるか」と。曰く、「病に困しみて、らざるなり」と。慶同曰く、「而の母なるとき、薬を市ふを聞けば、質とする所を問はん。金釧をるをはば、にすべし、れ其の病をすなり。亟かにち去れ」と。づからをけ、た人をはしてりかしむ。問１⑵にれんとするも、儒生の券未だいず。之を持ちて曰く、「券の、せん」と。慶同ひて曰く、「の為に金をしむか」と。之をにげ、に問はず。、のにひてる者有り。之に問へば、則ち負券の儒生の母子なり。其の母手にを持ち、して曰く、「かりせば、にるをず。翁はもてをるも、我は以ているし。病よりち、手づからのをりてを為し、より翁のたること、此の布のごときをせん」と。慶同受けて復た之をす。其のくのごとし。

【現代語訳】

羅念庵先生の先祖に名を慶同という者がいて、善庵という呼び名であった。常に薬を売ることで人の苦しみを救い、親戚かどうかや貧富の区別なく、病気で薬を求めると、必ずよい品物を与えた。たとえ借金の証文が支払われなくても、そのたびごとに（証文を）焼き棄てて問２⒜薬代の支払いを求めなかった。かつて大雪があって、夜半に戸を叩く音を聞き、すぐに起きてこの者に尋ねると、この地域の外から儒学を学ぶ学徒で母のために薬を買いに来た者であった。（慶同は）引き入れて、座って感嘆して言うことには、「夜に薬を買い求めるものは多い。（しかし、その場合）必ず皆その妻や子のために急いでいるのであって、いまだ（あなたのように）母のために薬を買うものはいなかった。あなたはなんと親孝行な者か。」と。そこでその立派な労苦をねぎらい、彼に飲食させた。儒学の学徒は女性用のブレスレットを取り出して薬の代金にしようとしたが、（慶同が）彼に尋ねて言うことには、「あなたの母がこれを命じたのか。」と。（儒学の学徒が）言うことには、「病気で苦しんでいて、知りません。」と。慶同が言うことには、「あなたの母の病状が快方に向かうときに、薬を買ったことを聞いたら、何を代金として渡したのか尋ねるだろう。ブレスレットを手放したと言えば、心の内ではきっと怒るはずで、これはその病気を重くする。すみやかに持って去りなさい。」と。自分の手で良い薬を授けて、また人を使って守らせて行かせた。（その後）歳が暮れようとしても、儒学の学徒は  
問２⒝借金をまだ返していなかった。（慶同の）使用人がその証文を持って言うことには、「借金の金額がいくらかありますが、いかがしましょうか。」と。慶同が笑って言うことには、「おまえは私のために金を惜しむのか。」と。その証文を火に投げて、とうとう問題にしなかった。明くる年の春、馬にまたがりほろ付きの車に従って来る者がいた。その者に尋ねると、借金の証文の儒学の学徒の母子であった。その母が手に金の布を持ち、（慶同を）拝んで言うことには、「問３善庵先生がいなければ、（私は）今日まで生き延びることはできなかった。先生は子どもや女として私を扱ったけれども、私はそれに報いることがなかった。病気が治り、自分の手でこの布を織り長寿を祈って、これより以後の先生の代々子孫が途絶えることなくつながって美しい様子が、この布のようであることを期待し願います。」と。慶同は受け取ってまたこの布を形見として後世に遺し贈った。彼の善行はこのようなものであった。